

『レメディが効かないビビリ成猫 保護猫に飼い主のインナーチャイルド 癒しで対処しているケース』

- 日本ホメオパシーセンター神奈川麻生白鳥
- CHhom9期 森本道子
- JPHMA認定No. 1096
- ZENメソッド習得認定No. 532
- 心理カウンセラー／プロセスワークプラクティショナー

クライアント:

保護猫のハルちゃん オス 三歳半

- 主訴:
- ビビリが酷くて触れないので爪も切れない。人間嫌い、家庭内野良猫状態。多動。
- (扱いづらすぎて保護猫団体にお返ししたいと思うことが度々ある)
- 印象: 美猫、大柄、大食いで何でも食べる

タイムライン:

- 生後5か月頃に野良猫から保護される(母猫は警戒心が強く保護されていない)
- ?才 ビビリのまま引き取られたが、その里親に噛みついてかなり流血させてしまったことから保護猫団体に出戻りした。(当時その話は聞かされていなかった)
- 3歳半 2020年2月 森本家へ夕方お出迎え。朝から捕まえられ保護ネットにずっと入れられたままの状態譲り受け、電車移動の後強烈なパニックとビビリが表面化する。

処方したレメディ:

- 興奮とビビりに合うパシフロラというペット用マザーチンクチャー、
- 気が小さくてびびりまくる子にピッタリのLyc.(ライコポディウム)、
- 恐怖に合うAcon.(アコナイト)、傷ついた心に合うArn.(アーニカ)、屈辱的な怒りに合うStaph.(スタフィサグリア)、
- アヤワスカという『通称縁切りレメディ』、Pet14(腎臓サポート)、Pet25(猫混合ワクチン3種を打った猫に)など
-
- →変化がみられない

虐待を受けていたようなトラウマを持った猫の場合

- 人慣れさせるのはとても難しく、引き取られた先でご飯は食べるが里親と全く打ち解けない
- 『家庭内ノラ』になってしまいう猫がいるそうです。



【私が行ったインナーチャイルド癒し】

① ①いつまで経ってもハルが懐かないことに反応してイライラする

- →懐いてくれないと・・・イライラするというより悲しい感じ
- →その感じに留まってみると、幼少期に家で飼っていた大好きなチワワにお菓子をなかなかあげなかったり意地悪したために大きくなっても自分にだけ懐いてくれなかったことを思い出した。



【私が行ったインターチャイルド癒し】

②ハルの被害者意識満載な過剰に怯える態度に腹が立ち、段々「傷つけてやりたい」という気持ちになる。

→プロセスワークのロール(役割)占有理論を当てはめてみることで、ハルが持っているエネルギー場(被害者—加害者)の加害者ロールに嵌りかけていたことに気づく。

(ロール占有理論：社会の中で浮遊している典型的な役割が存在し、無意識に、流動的に、その役割を私たちはとってしまう。)

【私が行った
インナー
チャイルド
癒し】

③ハルの連日止まらない夜泣きに寝不足になり、心が
乱れまくる

→夜泣きをされることで「究極私は何を恐れているの
か？」を探す

→『マンション住まいなので周囲から苦情が出たら困
る』

→さらに掘り下げると、『最悪マンションから出て
行ってくださいと言われたら大変！』という恐れに到
達。

【ハルの変化と出来事】

- ・ひと月半で、やや積極性が出てシャーが言えるようになる。
- ・半年を超え、Lyc.がやや効いたようで怯え10レベルが7レベルに改善。
- ・1年後、ずっと無言だったハルがご飯の要求で「あにゆる～」と鳴き始め、喜んだのもつかの間その後何かと大声でアピールしてご飯を要求するようになった。

【インナーチャイルド癒し】 クリエイティビティの解放

- ④ 懐いてもらえない生活があまりにつらかったため、自分を慰める意味でnoteに「修行ネコ★ハルと心の狭いわたしの物語」というエッセイの連載を始めた。(現在27話)
- その後の変化: ハルが目に見えてリラックスするようになる。

動物は敏感 エネルギーのつながり？

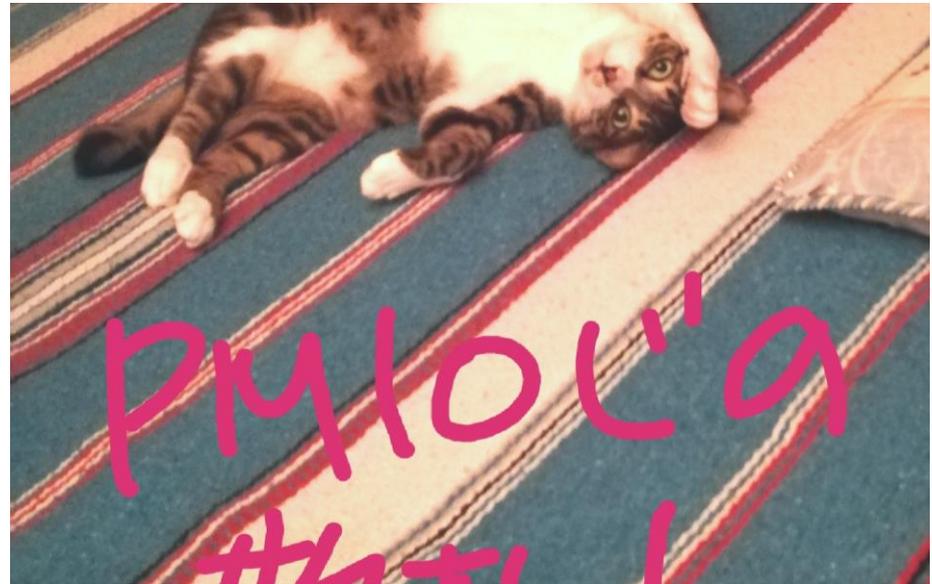
- ⑤突然早朝5時の朝ごはんの要求ギャン泣きタイムが始まり、数週間続く。
- →ハルとは全く関係のない私自身の家族関係に関して大きなインナーチャイルド癒しをした
- その後の変化：かなりリラックスするようになり朝は私が起きるまで待っていてくれるようになった。

修行がレベルアップ！（飼い主は求めていない）

- ⑥突然ウールサッキング（布類を食べる）するようになる。
- 数年たっても治らなかったため、一切の期待を捨て（依存を捨て）出かける時はベッドルームからは出してもらい、目につく美味しそうな服やタオルはハルのいるスペースからなるべく撤去して対処。

現在:

- ゆっくり手を出すと鼻タッチや猫パンチをしてくれる。猫ハウスに入ったハルを後ろから抱きしめる形で爪切りが出来るようになった。
- 都度アコナイトやスーパーブレッシングのスプレーで対処。文句の声は大きくても噛みつくことはない良い子である。
- 以前は何でもガツガツ食べていたが、今は猫らしく好き嫌いするようになった。お目目パチパチもしてくれ、より可愛らしい顔になった。



考察と気づき:

- 怯えが幼少期から激しいため前世の深いトラウマがあるように思われる。
- ハル程ではないにしても繊細な部分を持つ自分自身を批判しないで愛するというテーマ。
- 4年半が経った現在、そのままのハルを変えようとするのではなく、変わらないことに意味があり更に修行させてくれている猫なんだと捉えること。
- 現れる自分のインナーチャイルド癒しをすることで飼い主の心を広げ、母性や献身力を上げて頂いたのだと思います。来て頂いてありがとうございます。

ご清聴ありがとうございました。

- 日本ホメオパシーセンター
神奈川麻生白鳥
- 森本道子



保護猫ハルルン1(仲良しさんへ)

